

浜嶋です。

こんばんは。

3時40分頃、神戸の岩屋駅を降りた直後、5段ある階段を下り始めたら、右をゆっくり歩いていた女性が、宙を踏んで、そのまま、3メートルぐらい先まで飛んで、煉瓦の地面にベタッとうつ伏せになった。

頭の中で、動ける状態か、救急車を呼ぼうかと準備して、駆け寄った。一回目の「大丈夫ですか」のあとで、体に触れる前に、すぐに起き上がった。

額が赤くなっていて、打ち付けたことがわかった。はっきりと大丈夫と言っているのよかったですと思った。「額が赤くなっています。血がにじんでいます」と気がついたことを伝えた。

「足を踏み外してしまったわ」と言われたので、手に持った新聞のようなものを見ると、階段があることを知らずに、足を伸ばしたことがわかった。口を覆っていた手を外したら、唇から出血していた。

「口も血が出ています。大丈夫ですか」

歯の隙間に血が滲んでいる。でも大丈夫のようだった。

「駅に戻って、顔を洗ってください」

「親切にありがとうございました」

私たち以外に広場に人はいなかった。

大事に至らなくてよかった。

別れてから、これでよかったのかと思ったけれど、約束の時間が気になって先を急いでしまった。

心の準備だけで、何もしてあげられなかった。

今の私は、心肺蘇生法も自信が無くなるほど、救急訓練から時間が経ってしまった。

いつ、救急対応が必要になるかもしれない。スカウトに手当てが必要な場合に、適切な措置ができるように準備をしておかないと戒めた。

スマホや新聞を持って歩かないようにしましょうね。